

和書門
遊記
子

和書門	
二九〇九七	類
一〇四	函號
一〇	冊架

內閣文庫	
和書	二九〇九七
七函	一〇四

內閣文庫	
番號	和 29097
冊數	20 (15)
函號	172 84



乃手樹吳州名も一の目もさぬそのまゝ多くこれま
 ちも暖氣の山をさむ生らその品物も多きなるべし金作葉木
 小國の山をさむ採るに種物多しかくはさきも取込み十丁の
 かりつてせむらなりといふ樹木一本もさしおまはれしき車
 ぎしつり生らさるふりさきも四方諸道とらつては産満日の
 三列一笠の中に入りて家山の竹篠のこく大浦のまき
 びしきささきささき中にも樹木山突物も秀でてゑん
 おきささきささき絶頂より向き燈り四時ふきのりて香炉の
 こころ景色を双筆とつらざしして作の草をさすれ山は
 のぼる事又二十丁をれりといふまもかくみ兼やどうをけ在り

まりあふまつてやうなりさきさきなりおころありさうり
 修むのむらふささき天地の事さきさき不付下の方
 取らぬ事ありあふハ風とさぬふき来る又眺望のいぬ
 一それより二十丁ものぼりさきの背織とらささきさ
 御侍ゆらつととりつけとらさのぼり只平ふゆしりさ
 木皆若くも細のむらこいゆくとさきさきのつむとら後さ
 くるさきさきさきの背さきさきさきさきさきさきさき
 いささきのさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 の方ハ百何の若くも厚ハさきさきさきさきさきさき
 わらひハ五六丁ふてさきさきさきさきさきさきさき

かをく後ハ必何しくなく展動して地軸只今うさげかきて
け山激塵一成るや小雲也まも腰き意もいよきぬ氣少きを
てあるひハ雲のくくなる雲うつまきあり回折るものさへ一
向からく事もありあるひハおぼたねは天候の雲煙あり
まも鬼神のしく佛神のまき事もありあるひハ足下より
ふらのぼりたて横たなひきて織りるせるごとくくる事を
あり又天候もよ今まよる事もありまも事怪ふし
くくのふもあつたり神よ是れたつ小量は言一函の極
よらて又磁氣もあつたり火のよらて又火華雲よらて
かゆよ水火お激して展動雷電一又火華雲よらて

の形にゆるり入り硫黄燧硝の氣あつたり人をもよほして
持くの匂ひをいぢる事あり又おく一陣の風よらて
わりけしは先を教へて急ふりの折は倒さうとて
動はるるまは風力ぬよは身とくまきて極中のうらま
あつたりわや一ま風の乃よ取らるるものわらへけ山は
結集する人多しとく入り預もはははとまきてわら
風よとまらけはふりにり地は動けて風よらてまら
よせり志しふて又包よ風もまらまら事もあるり
れ雲は定つあるまらけははははとまらまら
のまらたよとまは是れをてまらわらとまら

後より介抱ししらくと心しあふ一志が程ハ多し
つと後しと目又は秘を盡せしといんも一とく不
せ難候し乃ひふ先を以やうくも格おしあし
はかき人引契しゆん事いふも中なるれ中も
ありこと下し人へし心をか及ぶ候不きく
かりし命は扱より終し十下なる以下まは天
下風をむしりし四方の脚を初めしとて休
候候と食しとめと寝しとてはるものけしと
ぞくしとくしとてはふしとてはるものけしと
やと云人おしと行なりしとてはるものけしと

て傍けふとるをうんとして元庸の人と同居せし
然るよ今もそのがたをすも終項とさし
下山せん事牛馬のいんあべし何とて一人なりし
これとのとてひりて先をよこれり終項と
いふどもると同するの背入りとて八下それとて
と病十下なりとやわんとのよとて終の通なり
やわると同しあむとて終項とさし何とて一人
終項と六程ハ扱しとて終項とさし何とて一人
とちり候てそれなりとて終項とさし何とて一人
て一かしとて終項とさし何とて一人

蓋し此の山は、一とく、業は、空す、る、一、わ、げ、け、山、の、
も、ぬ、ん、人、が、一、決、つ、る、と、は、ち、り、志、き、く、る、の、背、誠、と、い、い、
ひ、の、り、は、ト、ふ、途、の、ト、一、を、連、ぶ、る、の、く、す、ふ、入、く、大、
豆、の、こ、こ、一、樹、一、こ、て、い、そ、ぐ、や、ご、一、し、ら、り、す、ふ、ず、ぐ、あ、て、須、
臈、の、お、一、二、人、の、あ、は、ら、ぬ、あ、り、一、事、の、こ、と、一、は、ひ、を、秋、
そ、し、ら、ぬ、文、彦、の、傍、の、場、一、入、り、ぬ、え、来、ま、る、あ、り、山、の、ま、り、百、
へ、十、十、の、ち、ら、る、も、り、ふ、い、ま、集、一、て、皆、射、一、り、ら、り、中、あり、今、
夜、の、中、一、山、黒、虎、何、の、聲、を、り、一、と、も、も、一、と、の、脊、骨、り、一、
て、あ、ら、ぬ、生、野、の、い、ん、ち、ら、ぬ、う、ん、ま、の、伏、一、も、絶、頂、と、極、
め、ら、り、ぬ、え、な、り、た、な、り、一、ち、ら、る、と、極、の、ま、り、一、東、の、聲、一、と、い、ら、り、

蓋し此の山は、一とく、業は、空す、る、一、わ、げ、け、山、の、
も、ぬ、ん、人、が、一、決、つ、る、と、は、ち、り、志、き、く、る、の、背、誠、と、い、い、
ひ、の、り、は、ト、ふ、途、の、ト、一、を、連、ぶ、る、の、く、す、ふ、入、く、大、
豆、の、こ、こ、一、樹、一、こ、て、い、そ、ぐ、や、ご、一、し、ら、り、す、ふ、ず、ぐ、あ、て、須、
臈、の、お、一、二、人、の、あ、は、ら、ぬ、あ、り、一、事、の、こ、と、一、は、ひ、を、秋、
そ、し、ら、ぬ、文、彦、の、傍、の、場、一、入、り、ぬ、え、来、ま、る、あ、り、山、の、ま、り、百、
へ、十、十、の、ち、ら、る、も、り、ふ、い、ま、集、一、て、皆、射、一、り、ら、り、中、あり、今、
夜、の、中、一、山、黒、虎、何、の、聲、を、り、一、と、も、も、一、と、の、脊、骨、り、一、
て、あ、ら、ぬ、生、野、の、い、ん、ち、ら、ぬ、う、ん、ま、の、伏、一、も、絶、頂、と、極、
め、ら、り、ぬ、え、な、り、た、な、り、一、ち、ら、る、と、極、の、ま、り、一、東、の、聲、一、と、い、ら、り、
蓋し此の山は、一とく、業は、空す、る、一、わ、げ、け、山、の、
も、ぬ、ん、人、が、一、決、つ、る、と、は、ち、り、志、き、く、る、の、背、誠、と、い、い、
ひ、の、り、は、ト、ふ、途、の、ト、一、を、連、ぶ、る、の、く、す、ふ、入、く、大、
豆、の、こ、こ、一、樹、一、こ、て、い、そ、ぐ、や、ご、一、し、ら、り、す、ふ、ず、ぐ、あ、て、須、
臈、の、お、一、二、人、の、あ、は、ら、ぬ、あ、り、一、事、の、こ、と、一、は、ひ、を、秋、
そ、し、ら、ぬ、文、彦、の、傍、の、場、一、入、り、ぬ、え、来、ま、る、あ、り、山、の、ま、り、百、
へ、十、十、の、ち、ら、る、も、り、ふ、い、ま、集、一、て、皆、射、一、り、ら、り、中、あり、今、
夜、の、中、一、山、黒、虎、何、の、聲、を、り、一、と、も、も、一、と、の、脊、骨、り、一、
て、あ、ら、ぬ、生、野、の、い、ん、ち、ら、ぬ、う、ん、ま、の、伏、一、も、絶、頂、と、極、
め、ら、り、ぬ、え、な、り、た、な、り、一、ち、ら、る、と、極、の、ま、り、一、東、の、聲、一、と、い、ら、り、

只今世に稱する所の多子種は林代乃藤伝といふ事一人
 其地は怪むる由に事伝はしむるなり 二種無伝の種を
 の運洋入る事どけずん 考ふ所まうく一説あるもあ
 とむけとぶるあるしてけふ器を箱の器もさるハ東
 ありてとて伝言の事入る事にも仲伝ありてある由に事
 人のがらま中 只け山の言くまうも廣く大なる事
 して林原の光らり 三十六里山の中一太なる地入すもあり
 中ふと太殿の地紫の地中ハ免らり 二門もありて湖の
 一とゆへは山と地多く作て池の事最多く世者と
 りても他の事ハ事なりとて地をくとも多の時ハ事なり

してあるとなり 人伝のひらきけハ大地多く伝出て人伝の
 といふ又飛ぶといふ事ありて飛ぶの事と地をくとも地
 といふ事ありて事の事ありて人伝の事ハ事なりとて
 事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事
 一といふ事ありて事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事
 一といふ事ありて事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事
 毒地悪狀大怪味大怪毒事ハ事なりとて事ハ事なりとて
 事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事
 事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事
 樹が事なりとて事ハ事なりとて事ハ事なりとて事ハ事
 やさしく事も執事なりとて事ハ事なりとて事ハ事なりとて

西遊記 卷之四

七

うごくまぐち地獄少會獄小もかまうあり

地獄

地獄の事他が獄ハ西の名山の山の下に岩洞を掘り
のたより街のごく法に連なりきと三里只一巻を巻
まじ事ある山之麓にありの七夜へ流る小と大洋の中よ
り他獄と目あともとを移し事ありぬり時を極楽と
ぬり事ありけ山の麓の事極楽あり村に付て一巻すけ里ハ
一換の時獄の中は名もなりし事極楽ありぬり在
ありじき極楽あり山に登り道極楽ありし事極楽ありぬり
の山ありやうく登り事あり絶獄に登りぬり絶獄ハ平地を

氏承事とありふん入四相もきく地獄と極楽と
極楽三層ごりの川ありて天界の一小世界とあり地獄
の地獄ともいへり入んぬり小みと極楽の佛地獄と極
楽の音ありて地獄はと乘地獄ありしり又武重武重の
地獄極楽とあり極楽は地獄と極楽とあり天界の地獄と極
楽とあり極楽ハ地獄とあり極楽は地獄とあり極楽とあり
あがり極楽は地獄とあり極楽は地獄とあり極楽とあり
事とあり今の地獄より古代前までハ京都より極楽とあり
極楽ハ地獄とあり極楽ハ地獄とあり極楽ハ地獄とあり
から地獄の事小ありて事名も極楽ハ地獄とあり

今ついでと大空の雲の義所と云ふも及ぶやあつたまふ
 衆人の憂はたつた夫りしてわが事なりと云ふ
 海正公

此度の玉徳と云ふ加藤清正を義経と云ふ清正公の姓
 としとて清正と云ふ名を以て一國の敬と云ふこと
 成のありしなりと云ふ清正の本名を以て清正と云ふ
 事なる事と云ふことと云ふ清正のひりては清正と云ふ
 莫推嘉傑と云ふことと云ふ清正の大将と云ふことと云ふ
 今の世の清正と云ふことと云ふ清正の人の名と云ふこと
 と云ふ清正一人なり清正の人の名と云ふことと云ふ清正と云ふこと



すむお碎けて御申し流んと口しお取やもりきまけお地
 帯りゆけまをりまをり海りけまひしとせまの松野と
 外新しひひがたさるるぬ石灘なるまハ中洲おけ灘ふり
 切うしと見たりまはせ船とら流る船とい名付しなりた
 園の松原がのぼた海きさうしままおせんキの強きとくくへえは
 下は流るなりは流ハ依る未お流文おお流仕合の地さう
 ままと世の人はに流る事たまはあさるる

景清の母

景清の母ハ球麻の人まの膝下よりえお里御東の切幡村を
 景清の母ハ球麻の人まの膝下よりえお里御東の切幡村を

景清の母ハ球麻の人まの膝下よりえお里御東の切幡村を
 景清の母ハ球麻の人まの膝下よりえお里御東の切幡村を

白子

白子
 景清の母ハ球麻の人まの膝下よりえお里御東の切幡村を

一、其幸あり、若くは、一、い、く、む、行、せ、し、の、を、食、く、今、も、風、俗、の、實、
 今、も、而、も、幸、あり、ち、他、も、英、米、家、の、の、お、ハ、不、茶、と、を
 樽、を、あ、ら、う、年、ふ、料、理、と、す、と、あり、を、和、本、お、て、と、あ、ら、う、と、
 そ、く、お、お、ひ、て、至、て、お、易、さ、明、な、中、あ、ぞ、ハ、行、ひ、さ、る、と、
 お、ハ、所、を、と、を、世、の、報、の、こ、し、り、と、ぞ、と、れ、お、お、お、お、
 ま、る、唐、人、日、本、の、な、く、お、お、お、お、の、も、臘、棍、と、お、く、と、い、
 う、て、お、の、ま、が、著、し、と、を、お、お、お、お、一、つ、も、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 然、お、
 日、秋、飯、食、の、事、お、お、お、お、の、ご、と、く、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 臘、棍、と、お、く、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 とい、く、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 幸、あり、礼、儀、に、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 も、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 幸、あり、唐、人、の、裁、裁、する、お、お、お、お、の、お、お、お、お、お、お、
 臘、棍、と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 肉、と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 の、事、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 竹、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 唐、人、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 樹、藪、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

とい、く、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 幸、あり、礼、儀、に、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 も、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 幸、あり、唐、人、の、裁、裁、する、お、お、お、お、の、お、お、お、お、お、お、
 臘、棍、と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 肉、と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 の、事、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 竹、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 唐、人、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 樹、藪、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

その下でも針はりのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 全ぜん兵へいを凌しのびておろしつる器うつわなりも柳やなぎづかふ針はりのつら竹たけはさ
 さかりそふのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 よりえハは針はりをさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 一ひとひ一人ひとり人ひと能あたはるは家いえに結むす巡めぐり見みのつら竹たけはさす
 因よにさるるに掃除そうじしそ自みづかの難がた人ひと一人ひとりも出でるさるるに
 又また海うみをさるるに城しろのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 ま人も目めふらさるるに唯ただカビかびと下したの御ご人ひとさるるにさるるに
 能あたはるさすつて屋い敷ぢのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 人の難がた人ひと大おほ敷ぢ道みちのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに

かつて針はりの中なかにも押おしつるさるるに城しろのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 難がた人ひと一人ひとりのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 柳やなぎづかふ針はりのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 一ひとひ一人ひとり人ひと能あたはるは家いえに結むす巡めぐり見みのつら竹たけはさす
 因よにさるるに掃除そうじしそ自みづかの難がた人ひと一人ひとりも出でるさるるに
 又また海うみをさるるに城しろのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 ま人も目めふらさるるに唯ただカビかびと下したの御ご人ひとさるるにさるるに
 能あたはるさすつて屋い敷ぢのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに
 人の難がた人ひと大おほ敷ぢ道みちのつら竹たけはさすなりつてゆくことと決きしてさるるに

観人などても来朝の時下統のまのども道中筋もも尾
筋もろろぬすももも國のろろごごひやうへー

陸乳完

備中國の田領の山中一帯よりもち乳と稱する洞ありあり
るちちハ陸乳とらふものとを洞あるの中に陸乳入り多く
あまハ名付しるり松山城下よりハ七八里頃へぞたりも完
入りにはもろもろ大ホーしてせよく入まハ仍舊りて石壁ありその
石壁も小まもろありそま小まあるとくく入まハまもろ大まひ
ろまもろろふ乳は西まあーの日光まろく乳乳まもろま
ーまもろ乳のま松のままもろまもろー入まもろまもろま

り産く凡や十百のりももろろーは西よまろ陸乳石乳
おろりもろ又ももろのま産魚の乳まもろまもろり皆自然入
るりてま乳はまもろり乳と魚のまもろりわくふ又仍舊ま
る壁ありまもろ入まもろまもろ小穴ありまもろく圃園
てくろろ入る程の小ありまもろりまもろとまもろくおーしてまもろ
まハ又産まもろ乳は西まあーの日光まろく乳乳まもろま
まもろありまもろ入まもろりまもろとまもろくおーしてまもろ
ゆくも切岸入まもろと懸崖ありまもろけけまもろくおーして
けけまもろの流まの流まの川ありて水足首はひまもろ
まもろ川は後で流へて極まもろゆけハ又ゆまもろりて石

坐ありしを覺すと又小穴ありそれともくち撥き入りて
 る所ありはふと物のニテ所よりいぢり撥くして撥き入
 りてふとふとふとふとふとふとふとふとふとふとふと
 くはしつちして入りたるをうへと奥にいりたるあるやい
 ちと知るる一余のむねをわたりて地をぬきいりて
 此奥にわたりて老人と御守と一とて穴に入りて御守
 の老人もふとふとふとふとふとふとふとふとふとふと
 一とももの二返目の懸崖となり一幸いなく降りて後
 かりしと云はる事の辭を勝つてわたりて又又又
 もある人さきと志してすゝめて三返目の崖をよまて入り

一小徑は奥と探んとしてすゝめし御守の老人たおされて松
 の下をわたりて穴の中にて松の根をばぬき入りて
 事叶ふと云はる事の辭を勝つてわたりて又又又
 一穴に入る事バ東一りでも多くして先小きて逃がし
 力を出てぬき入りて世の事と記し作り画しもあして余
 一余は乃のけりう懸がてま地よりちゆらう一穴に入る
 一穴に入る事バ東一りでも多くして先小きて逃がし
 力を出てぬき入りて世の事と記し作り画しもあして余
 一余は乃のけりう懸がてま地よりちゆらう一穴に入る
 一穴に入る事バ東一りでも多くして先小きて逃がし
 力を出てぬき入りて世の事と記し作り画しもあして余
 一余は乃のけりう懸がてま地よりちゆらう一穴に入る

ついでして別の人ある伊豆の山ありて
と見るとも今もては地をたぐりや入る人ありて
唐古とてハ隠隠とふ事一里ありて
里とて入りて隠隠の人を御あすの湯とて
又地とふ事一里ありて載り入りて
一里ありてふ事一里ありて載り入りて
日教とてふ事一里ありて載り入りて
下の解ありて一里ありて載り入りて
の飛りひりて一里ありて載り入りて
大蛇毒ひりの物もすあるものハ
穴中おびろろ一里ありて載り入りて
わり入りてハ細きうさるるべし

書林

穴中おびろろ一里ありて載り入りて
わり入りてハ細きうさるるべし

西遊記卷之八終

- 一 西遊記 後編 全部八冊
- 一 東遊記 前編 全部八冊
- 一 日 後編 全部五冊

寛政七年卯三月

京都寺町通松原下町

勝村 治右衛門

大医心齋橋通安土町

吉田 善藏

書林

